

# マイルストーン 紙飛行機

斎藤 武夫

二宮先生のキットの中にマイルストーン紙飛行機がある。航空機の歴史の一里塚として歴史に残った航空機を紙飛行機にしたのだ。紙飛行機を作りその歴史を繙くのは貴重な体験なので、キットや切り抜く本を利用して製作した機体を載せたが、この中のマイルストーン紙飛行機は廃版となっているものもある。

## リリエントールのグライダー



ドイツのオットー・リリエントールが1891年から96年にかけて16機改良製作して2000回近くの実験を繰り返した。最高の飛行は300mを超え、12秒から15秒の滞空時間であった。パイロットは機首上部に半身を出し、足を前方に出して操縦をした。

全長：205 mm、全幅：195 mm、自重：10.5 g

## ライト兄弟のフライヤー号



1903年12月17日ライト兄弟が米国ノースカロライナ州キティ・ホークの海岸でエンジン飛行機として世界で初飛行をした。本機は先尾翼機(カナード)である。

最初の飛行時間は12秒、飛行距離は36mであったが、当日4回目の飛行は260m、59秒を記録して初飛行はゆるぎないものとなった。

全長：175 mm、全幅：256 mm、自重：20 g

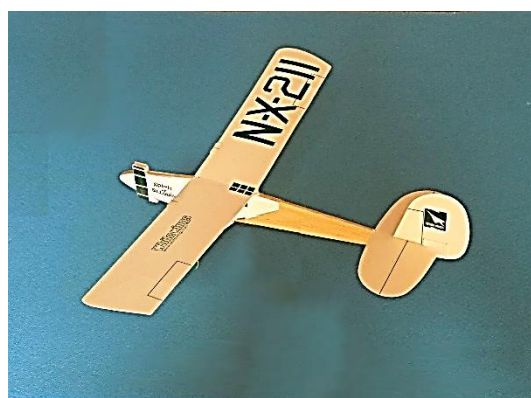
## プレリオ XI



プレリオの11番目の機体、タイプXIは1909年1月23日初飛行し、その後種々改良し、1909年7月25日、カレーとドーヴァー間のイギリス海峡40kmを横断した。時間は36分30秒であったが海峡を航空機が横断しインパクトをもたらした。

全長：201 mm、全幅：190 mm、自重：9.7 g

## スピリット・オブ・セント・ルイズ



チャールズ A. リンドバークは1927年5月20日の朝1人でパリに向けて離陸した。33時間30分、3,610マイル(5,776km)を飛行して、パリ郊外のル・ブルジェ飛行場に着陸し市民の盛大な歓迎を受けた。

後日“翼よあれがパリの灯だ”で映画化されている。

全長：244 mm、全幅：220 mm、自重：11.7 g

### ベランカ社ミス・ビードル号Ⅲ



世界で初めて太平洋無着陸横断に成功した機体である。

パイロットは、クライド・バンクボーンとヒュー・ハーンドンの二人で1931年10月4日 三沢市からウェナッチ市へ飛行し着陸した。

三沢市淋代海岸を飛立ち車輪を捨てて41時間13分、飛行距離7,982kmを飛行して無事に胴体着陸した。

全長：204 mm、全幅：202 mm、自重：9.4 g

### 東京号（トラベルエア 4000）



日本人の世界三大陸単独飛行を成功させた機体である。パイロットは東善作で1893年石川県かほく市に生まれ同氏は渡米してパイロットライセンスを取得した。

1930年5月、ロサンゼルスから日本に向けて飛びたち、アメリカ、ヨーロッパ、アジアの世界三大陸単独飛行を、70日間、18,000kmを成功して、同年8月31日、東京の立川飛行場に着陸し偉業を達成した。

本機はかほく市のJC競技会の課題機であった。

全長：206 mm、全幅：180 mm、自重：12 g

### ロッキード・ウェガ “ウイニー・メイ”

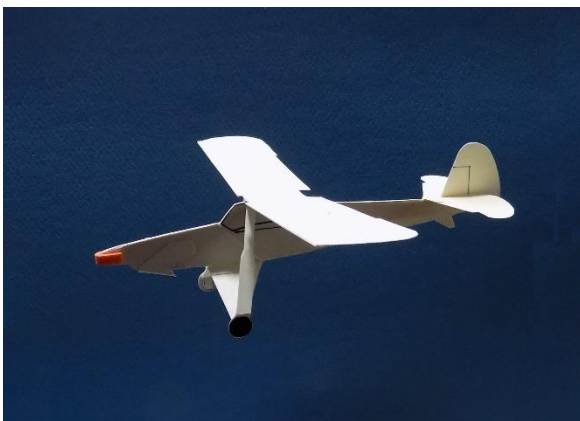


ロッキード・ヴェガは1927年に完成し機体は木製セミモノコック構造で、高い性能を発揮した。当時の飛行家達は、飛行記録に挑戦し数々の世界記録を打ち立てた。

ウィリー・ポストは1931年6月23日にニューヨークを出発し、世界一周をして出発地のニューヨークに7月1日に到着、総飛行距離約2万5千キロ、飛行時間107時間2分。所要期間8日15時間51分で当時の世界一周早周り記録を達成した。

全長：205 mm、全幅：204 mm、自重：11.2 g

### ファイゼラー”シュトルヒ”



ドイツのファイゼラー”シュトルヒ”は高翼単葉の低速機で、向い風では短い距離で不整地でも離着陸の出来る機体でした。第二次世界大戦中に戦線で空中偵察、弾着観測、負傷兵輸送など多様な目的に使用された航空機です。

シュトルヒ (Storch) とはドイツ語でコウノトリを意味します。

全長：204 mm、全幅：202 mm、自重：9.4 g



## デ・ハビランド DH82



タイガームスは英国デ・ハビランド社の1930年代の軽飛行機で、初飛行は1931年10月26日である。

全木製の複葉機で自家用機、クラブ用機、練習機として多数使われました。特に第二次大戦中、英国の空を護った多くのパイロットを育てたことでも知られている。

総生産機数は、民間型を含めると8,000機を超える。

全長：210 mm、全幅：192 mm、自重：12.0 g

## 航研機



航研機（こうけんき）は、東京帝国大学（現・東京大学）附置航空研究所が設計し、飛行は大日本帝国陸軍の協力のもと、1938年（昭和13年）に長距離飛行の世界記録を作った実験機である。木更津—銚子—太田—平塚の四か所を周回するコースを回り11,650kmの世界記録を起立した。

全長：145 mm、全幅：230 mm、自重：6.6 g

## 三菱 零戦 52形



零戦は、第二次世界大戦期における日本海軍の主力艦上戦闘機でゼロ戦とも呼ばれた。これは皇紀2600年に開発された戦闘機で、長い航続距離・重装備・優れた飛行性能などで、三菱と中島で約10,000機生産され、米英ではゼロファイターの名前で知られていた。

全長：192 mm、全幅：188 mm、自重：8.2 g

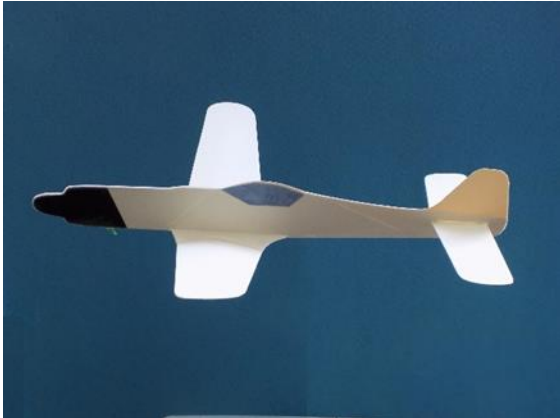
## 三式戦闘機 飛燕



飛燕は川崎航空機で開発・製造された戦闘機である。1943年（昭和18年）の第二次世界大戦時に制式採用され総生産機数は各型合わせて約3,150機に上った。実戦投入された唯一の液冷エンジン機であったが、後半には空冷エンジンが採用された。

全長：190 mm、全幅：210 mm、自重：12 g

## フォッケ・ウルフ Fw-190D



第二次世界大戦のドイツ空軍において、初期型は空冷エンジンの主力戦闘機である。飛行性能が優れ機体が頑丈で、戦闘爆撃機型や対爆撃機型、高速偵察機型などが生産された。なお機体の整備・運用も楽な戦闘機であった。

1944年に不足していた高高度性能を改善するため、エンジンを液冷エンジンに換装した Fw 190 D-9 型が登場した。シリーズの総生産数は 20,000 機以上であった。

全長：216 mm、全幅：194 mm、自重：12 g

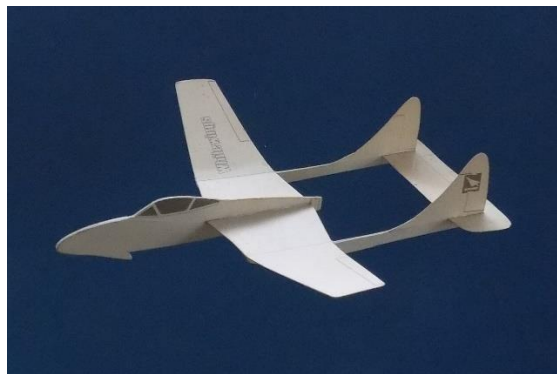
## P-51D ムスタング



ムスタングはアメリカ軍でも第二次世界大戦中に使用した機体で最高と評価されている<sup>1</sup>。それは様々な局面に対応できたことから最強の万能戦闘機、史上最高のレシプロ戦闘機とも評されていた。

全長：180 mm、全幅：182 mm、自重：8.4 g

## デハビランド・バンパイア DH100



バンパイアのプロトタイプ、英国のデハビランド社の DH100 は 1943 年に初飛行している。ジェットエンジンを搭載するためジェットの排気をスムーズに後方へ流し、かつ機体重量の軽減を図るため、双ブーム形式で後部にジェットエンジンを装備した短い胴体と尾翼をつなげることにし双ブームジェット戦闘機の始まりである。

全長：204 mm、全幅：178 mm、自重：9.0 g

## アエルマッキ MB-326

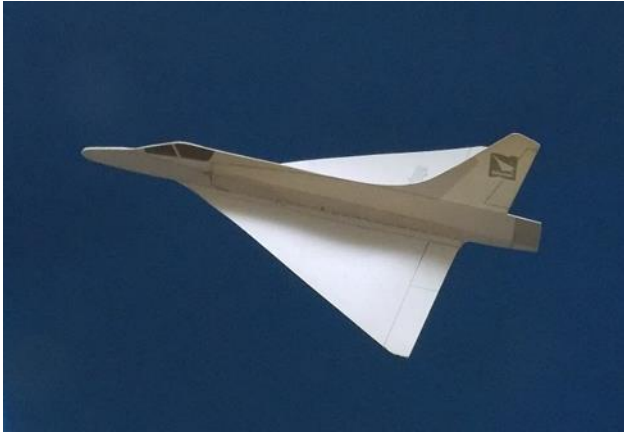


アエルマッキ MB-326(Aermacchi MB-326)はイタリアのアエルマッキ社が開発したジェット練習機および攻撃機。機体は単純かつ頑丈なエアフレームをベースにしており、タンデム複座式のコックピットは与圧化されている。主翼は低翼配置の直線翼で、その翼端には増槽が装備され、付け根にはエンジン吸気口が設けられている。降着装置が短いため、離着陸時に尾部を滑走路にこすらないよう後部胴体には尾輪が設けられている。

運用開始：1962年 生産数：761機

全長：200 mm、全幅：176 mm、自重：10.2 g

## MIRAGE 2000



フランスのダッソー社製の軍用機。もとは迎撃戦闘機の要求に基づいて開発され、第4世代ジェット戦闘機としては小型・軽量の戦闘機であるが、改良が続けられた結果、世界的に有名なミラージュ・シリーズ初のマルチロール機となった。フランス空軍に1983年、8か国の空軍に採用された。

全長：213 mm、全幅：150 mm、自重：7.4 g

## AV-8B ハリアー II



AV-8B ハリアー II (AV-8B Harrier II) は、マクドネル・ダグラス (現ボーイング) 社が短距離離陸垂直着陸機のホーカー・シドレー ハリアーを基にスーパークリティカル翼や揚力強化装置を組み合わせ開発した攻撃機である。

運用開始：1985年1月12日

生産機数：337機

全長：205 mm、全幅：168 mm、自重：8.8 g

## F/A-18D ホーネット



F-4ファントムやA-7コルセア艦上攻撃機の後継機として開発されたアメリカ海軍及び海兵隊の艦上戦闘機及び艦上攻撃機です。1974年アメリカ海軍は、次期艦上戦闘攻撃機の開発を目的とする計画を発表しました。2000年8月にアメリカ海兵隊に引き渡されたF/A-18Dを最後に生産を終了している。数機のF/A-18Cがブルーエンジェルス仕様と改造され交換されている。

全長：224 mm、全幅：158 mm、自重：8.1 g

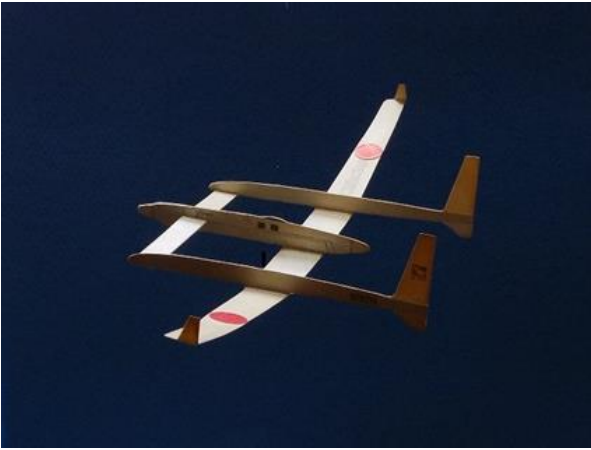
## F-15 イーグル (戦闘機)



アメリカ合衆国のマクドネル・ダグラス社 (現ボーイング社) の開発した制空戦闘機。制式機の受領は1972年 (正式編成は1976年)、愛称はイーグル (ワシ) (Eagle)。

全長：225 mm、全幅：168 mm、自重：11.8 g

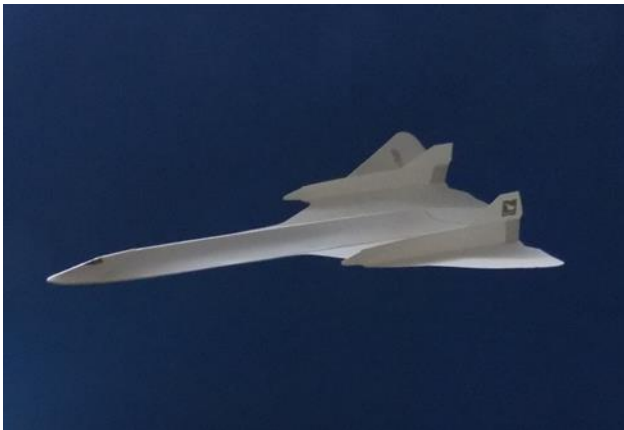
## ルータン ヴォイジャー



ルータン ヴォイジャー (Rutan Voyager) は1986年12月に二人のアメリカのパイロットにより初めて無着陸・無給油での世界一周飛行を成し遂げた双胴カナード機である。垂直尾翼のついた双ブームを持ち、2つのプロペラとエンジンを主胴体の前後に配置した特徴的な外見を持つ機体である。

全長：192 mm、全幅：188 mm、自重：8.2 g

## SR-71 Blackbird



1950年代後半に米ロッキードが開発した戦略偵察機「SR-71ブラックバード」は冷戦時代、他のどの飛行機よりも高く、そして、速く飛ぶことができた。初飛行から半世紀以上が経過した今もそれは変わらない。

全長：238 mm、全幅：146 mm、自重：9.7 g